

10/23
(日)

空手キッズが躍動

弓削空手道スポーツ少年団

竹原市バンブージョイハイランド体育館において、第23回 広島県空手道選手権大会が開催されました。試合の結果は下記のとおりです。

●型の部

小学2年男子 2位 左高 唯人
小学4年女子 2位 澤田 彩希
小学5年女子 3位 山下 雛乃
一般3部（有段）1位 左高 寿幸 3位 古川宗之輔

●組手の部(自由組手)

小学2年男子 2位 左高 唯人
小学4年男子 2位 左高 綾人
小学5年女子 3位 山下 雛乃
一般3部（有段）1位 左高 寿幸

11/1
(金)

地域ふれあい講座

～モルックをポップコーンの会の人々と遊んでみよう！～

岩城小学校において、5、6年生・保護者を対象に地域ふれあい講座を開催しました。講師に中川理香さん（上島ポップコーンの会）と大西美穂さん（愛媛県障がい者スポーツ地域コーディネーター）をお招きし、モルック体験を行いました。競技中に得点が入り、小学生とポップコーンのみんなでハイタッチする場面があり、ポップコーンの会とのふれあいを通して障がいのある方への理解を深め、学ぶ体験となりました。

～愛であふれる上島町へ～



地域ふれあい講座は、各種団体の研修の場に出向き、保護者、地域住民に対し様々な人権課題、地域課題について学ぶ機会をもつことを目的としております。開催を希望する学校や、団体がありましたら、事務局までお問い合わせください。

上島町教育委員会（事務局） ☎77-2128

11/16
(水)

レモン懐石づくり～地産地消～

岩城小5年生20名が体験

岩城小学校5年生20名が、農家レストラン「でべそおばちゃんのお店」において、レモン懐石づくりを体験しました。はじめに、レモンの果汁を搾り、レモンの実をくり抜いたり、レモンの葉をたたいて香りを出し飾りや器にしたりと、でべそおばちゃん達に教わりながらレモン懐石が出来上がりました。5年生の児童は美味しくレモン懐石をいただき、自己紹介を交えながら、でべそおばちゃんたちと楽しいひと時を過ごしました。



愛媛県砂防ボランティア協会長賞 表彰

上島町立弓削中学校3年生の中根維花さんが、令和4年度土砂災害防止に関する作品「作文」で愛媛県砂防ボランティア協会長賞を受賞され、表彰式が行われました。愛媛県が作品募集を行い今年度は絵画・作文で合計73点の応募があり、厳正な審査の結果砂防ボランティア協会長賞を受賞されました。



「土砂災害から命を守るために」

弓削中学校 三年 中根 維花
七千件。この数字が何を表しているか知っていますか。令和三年中の飲酒運転による交通事故件数、二千百九十八件の

約三・二倍の数です。これは、二千二十年までの直近三年間で日本で発生した土砂災害の件数を表しています。単純計算で一日約六件発生していると考えられます。土砂災害はもう、他人事ではありません。私の学校では全校で「砂防学習」の授業がありました。そこでは、3Dシミュレーションの土砂災害をみたり、雨量体験、土砂災害を防ぐ施設について模型を使って教えていただいたりしました。

日本は豊かな自然に恵まれているがその反面、さまざまな自然災害が起こります。その中に「土砂災害」があるのです。日本に土砂災害が多い原因として四つのことが挙げられます。

一つめは、雨が多いことです。日本は世界の国々の中でも特に雨が多い国で、梅雨や台風などで大雨が集中して降るそうです。

二つめは、山地が多く、もろい地質の山が多いことです。日本は、国土の約七割が山地で、けわしくて崩れやすい地質の山が多いそうです。

三つめは、川が急流なことです。山が高くけわしいため、川の流れが速く水が山の土をけずる力は強くなり、下流にたくさん土砂が運ばれるそうです。

四つめは、地震も火山も多いことです。日本は地震がとて多い国で、日本列島には全部で百十一もの活火山があるそうです。

みなさんは、土砂災害が起こる原因を知っていたでしょうか。また、私達が住

む愛媛県は「土砂災害危険箇所」といって、土砂流、地すべり、がけ崩れなどが二百箇所以上も発生するおそれのある場所がほとんどを占めています。災害にはたくさん種類があり、土石流災害、地すべり災害、がけ崩れ災害などがあり、そのどれもに前ぶれがあります。土石流では、川や沢の流れがにぎり、木が流れてきたり、雨が降り続けているのに、川や沢の水が減ったりすることが前ぶれだそうです。地すべりでは、山の根が切れる音がしたり地面にひび割れや段差ができることなどが前ぶれで、がけ崩れでは、小石がパラパラ落ちてきたり木が揺れたり傾いたりすることなどが前ぶれだそうです。私がみた3Dの映像でも、川がにごっていたり地なりがしたりなどの前ぶれのシーンがありました。これらの前ぶれを知っているから早めの避難ができるのだと実感しました。雨量体験では、カッパを着て傘をさしているのにもかかわらず、広い範囲がぬれてしまいました。近年では、一時間降水量五十ミリメートル以上の年間発生回数が約一・五倍に増加していることが分かっているそうで、とても怖いと感じました。土砂災害を防ぐためにつくられる施設には、砂防堰堤（砂防ダム）、溪流保全土、山腹工などがあります。模型を使った際に、砂防堰堤がない場合では石ころがたくさん落ちてきて、建物や車も流されていました。しかし、砂防堰堤がある場合では石ころが止められ、あまり流されてきませんでした。砂

防堰堤が二つになると全然流されてこず、とても凄さが伝わりました。また、私は法枠工というコンクリートの枠で斜面をおさえる壁をみたことがありました。今までは何の為何かが分かりませんでした。が、がけ崩れ災害を防ぐ施設だと分かり、スッキリしました。他にも、擁壁工という崩れた土砂や砂や受け止める壁や柵があります。みなさんも、身近にあると思うのでみてみてください。

土砂災害から身を守るために、私達が身につけないといけないのが避難のしかたです。普段から心がけておくこととして、避難場所は家族で確認すること、気象情報に注意すること、非常持ち出し品を用意することなどが挙げられます。ちよつとしたことが大切ということが実感できました。自分で防災グッズのチェックリストなどを作って準備すると楽しくできるかもしれません。なにより「すばい避難」、最後の手段が「垂直避難」だそうです。命を救うためには早く避難し、それでも逃げ遅れた場合に一階から二階に行くなどの上下移動の「垂直避難」です。土石流に直撃された家の二階にいた家族は助かり、一階にいた家族は亡くなったという事例があるそうです。垂直避難で、最後まで諦めずに生きる努力をすることが大切です。土砂災害から命を守るために、自分ができることは何でしょうか。今日からできることをして、災害に強い自分になっていきましょう。それでは、「よいい、スタート。」